

第28回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成27年11月

応募者名：大分県竹田土木事務所

事業の名称：竹田都市計画道路事業

3・4・2号竹田玉来線

実施都市名：大分県竹田市

事業目的

- ・竹田中心市街地と玉来地区の連絡機能強化による利便性の向上
- ・バイパス整備による通行車両の走行性・安全性の向上及び定時性の確保
- ・歩道の設置による地域住民の安全な通行空間の確保
- ・防災拠点である総合運動公園へのアクセス性向上による防災力の向上
- ・バイパスへの交通転換による現県道沿線の住環境の改善
- ・線路との立体交差化による交通の円滑化

事業概要

事業名称：竹田都市計画道路事業

路線名：3・4・2号竹田玉来線

事業箇所：大分県竹田市大字竹田～大字玉来

事業延長：L=725m【五反切工区】

幅員：W=6.0(13.0～16.0)m

事業費：約33億円【五反切工区】

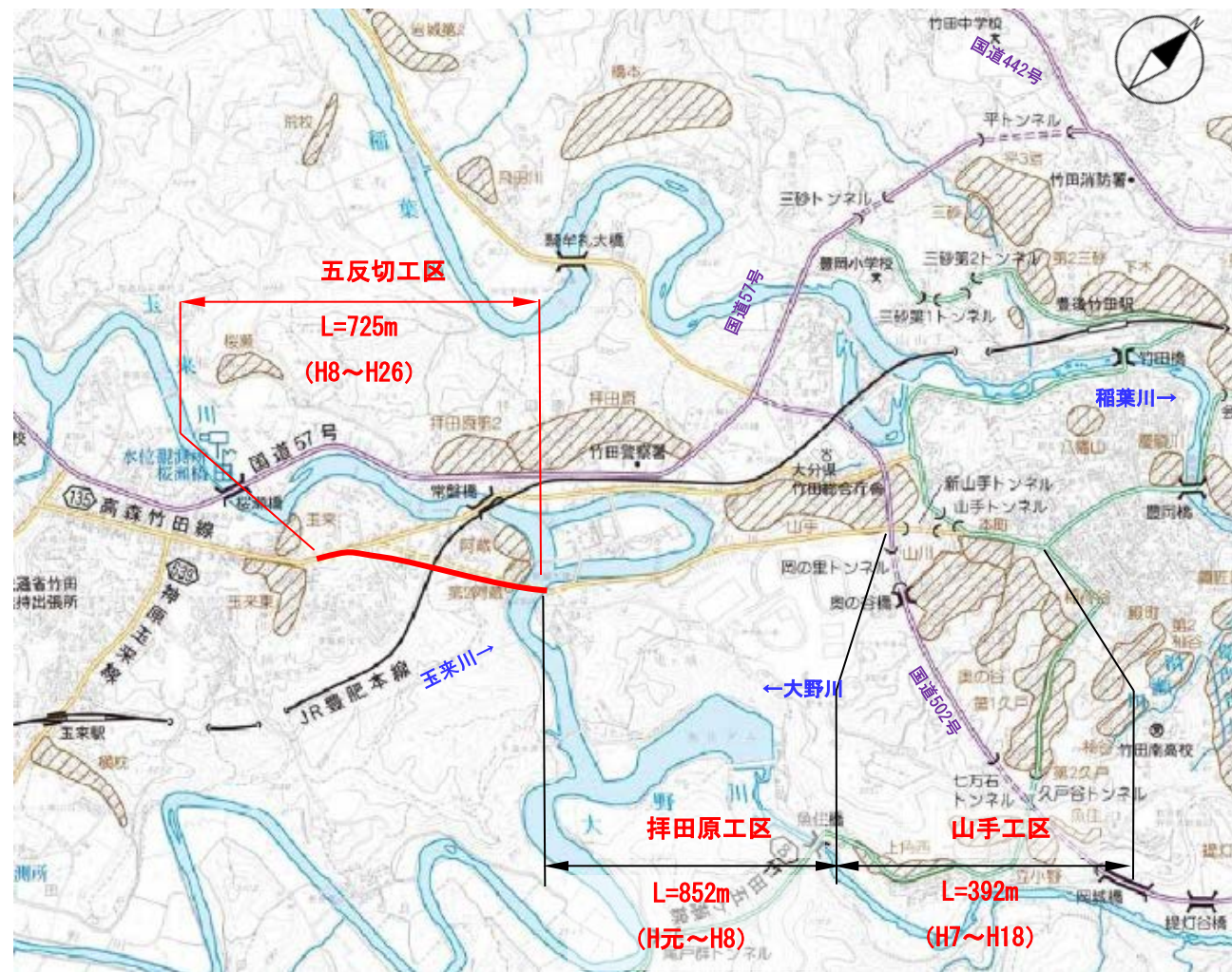
事業実施期間：平成8年～平成26年【五反切工区】

本路線は、竹田市中心市街地と玉来地区とを結ぶ重要な幹線道路であり、県道竹田五ヶ瀬線及び高森竹田線のバイパスとしての機能を有している。

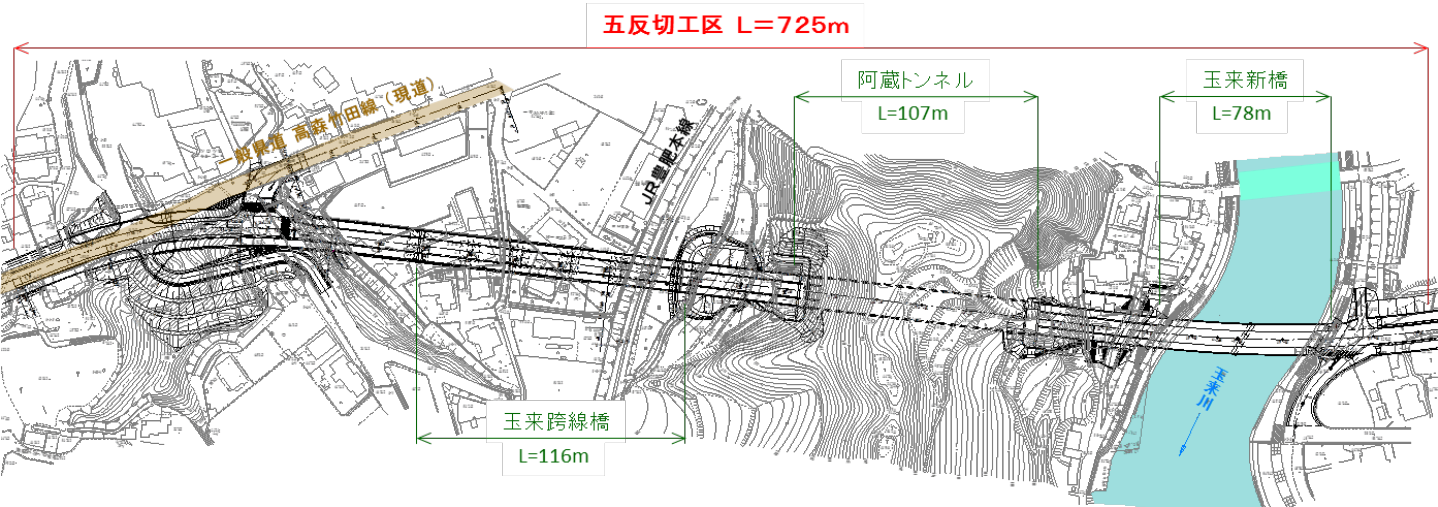
現道の県道高森竹田線は、幅員が狭く歩道もないうえに、人家も密集しており見通しも悪く、通行車両、歩行者双方にとって危険な箇所が多い道路であった。

本事業により竹田市内の渋滞緩和を図るとともに、交通安全性の向上ならびに快適な街づくりを図ったものである。

事業位置図



全体図（平面図・側面図・横断図）



全幅 W=16.0m(13.0m)

※()の値は
橋梁上またはトンネル内

歩道	停車帯 (路肩)	車道	車道	停車帯 (路肩)	歩道
3.5m(3.0m)	1.5m (0.5m)	3.0m(3.0m)	3.0m(3.0m)	1.5m (0.5m)	3.5m(3.0m)

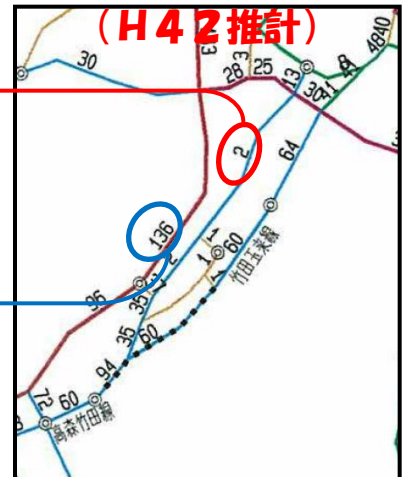
竹田玉来線の整備効果アピール資料

整備「なし」の場合



現道の通過交通がバイパスへの転換により減少

整備「あり」の場合



現道を敬遠して平行路線である国道57号を迂回していた通過交通がバイパスへの転換により減少

○交通量推計結果（H42）

供用前（現道）23～68百台／日（国道57号）119～166百台／日

供用後（現道）2～35百台／日（国道57号）96～136百台／日（BP）60～64百台／日

【交通量の推移に係る推計】

通過交通については現道からバイパスへの転換が図られているとともに、現道を敬遠して平行路線である国道57号に迂回していた通過交通についてもバイパスへの転換が図られる。

○事業概要

事業名：竹田都市計画道路事業
路線名：3・4・2号竹田玉来線
事業箇所：大分県竹田市大字竹田～大字玉来
事業延長：L=725m【五反切工区】
幅員：W=6.0（13.0～16.0）m
総事業費：約33億円【五反切工区】
事業期間：平成8年～平成26年【五反切工区】

「整備効果」

- ・竹田市中心市街地や総合運動公園、文化会館などへのアクセス性が向上し、交流・物流の促進が図られた。
- ・緊急輸送道路（2次ネットワーク）としての防災性の強化が図られた。
- ・幅員狭小で線形不良な現道の通行や朝夕のラッシュ時の混雑、踏切抵抗などから解放された安全で快適な走行空間が確保された。
- ・通行車両がバイパスに転換されることで、現道の交通安全性が向上し（特に通学路対策）、騒音振動の軽減など住環境の改善も図られた。

「その他の事業効果」

- ・H24年7月の九州北部豪雨にて周辺地区の浸水被害の拡大の一因となった阿蔵新橋（竹田市管理市道橋、平成元年10月完成）が撤去されることに伴い、その代替道路として阿蔵新橋の直下流にあった本路線の「玉来新橋」が使用されることになった。

事業前写真

平成26年4月撮影

事業前写真1



事業前写真2



事業前写真3



事業後写真

平成27年5月撮影

事業後写真1



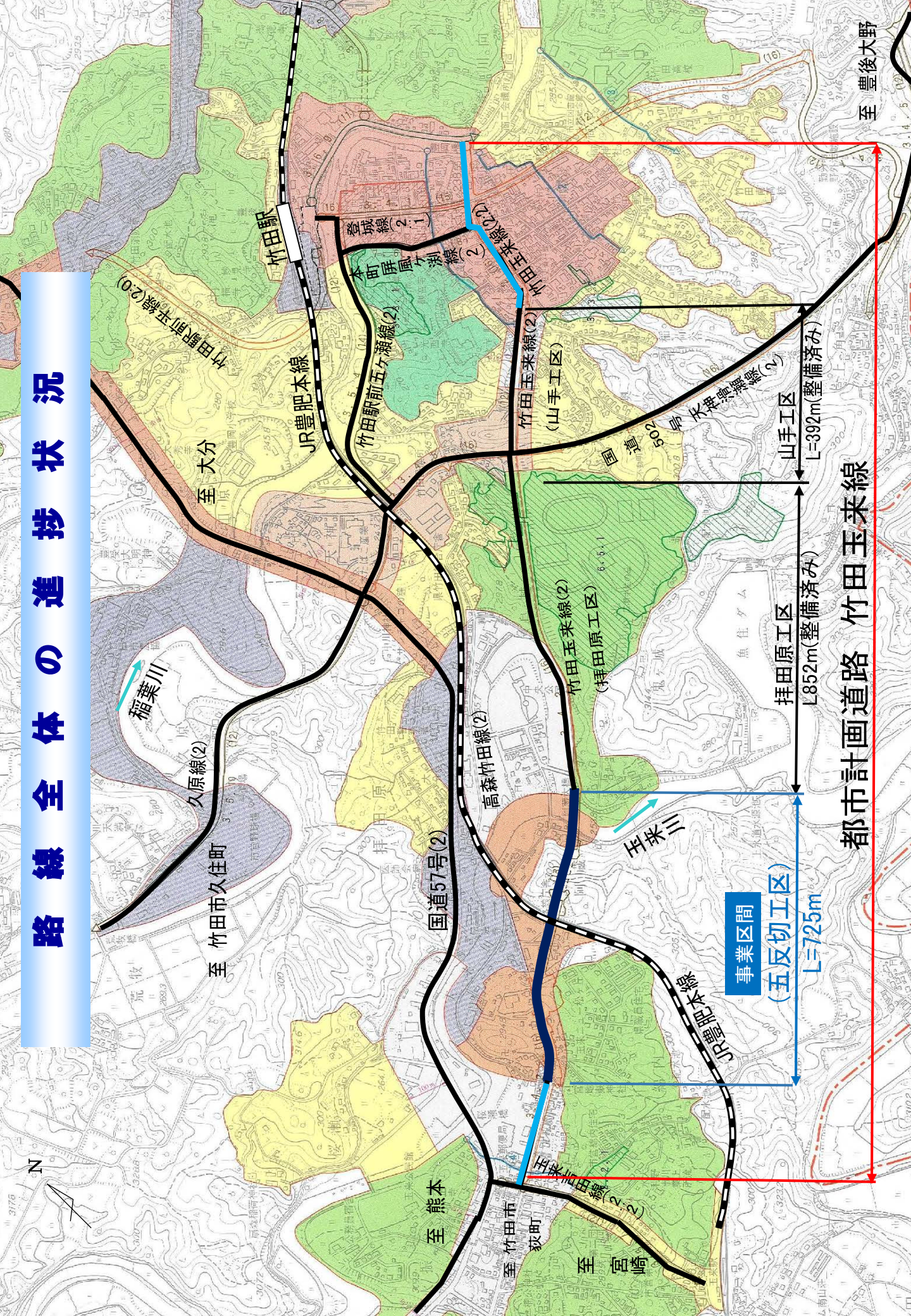
事業後写真2



事業後写真3



路線全体の進捗状況



事業区間

(五反切工区)

L=725m

拝田原工区

L=852m(整備済み)

山手工区

L=392m(整備済み)

都市計画道路 竹田玉来線